



発行人 小西 克一
編集人 中野 秀一

http://www.weekly-net.jp

毎週月曜日発行 購読料3か月10,500円 振替口座 00950-4-106153
昭和62年11月14日第三種郵便物認可 ©物流産業新聞社 2014
物流産業新聞社 物流ウィークリーではISO9001:2008認証を取得しています

東京 東京都新宿区角町7(ロクサンビル4F) ☎03(3226)9371(代)
中部 名古屋市熱田区横田2-1-32-603 ☎052(265)9461(代)
大阪 大阪市東住吉区山坂1-15-14 ☎06(6608)0501(代)
全国13拠点をネットワーク

遺品整理士認定協会

需要拡大 高利益率

運送業界での関心高まる

運送業界でも遺品整理を新たな事業とする会社が増え、関心も高まっている。専門家の養成を通じ、業界の健全化を目指して活動しているのが遺品整理士認定協会(北海道千歳市)だ。木村榮治理事長と小根英人副理事長に話を聞いた。

同協会は2011年9月に発足し、同11月から事業をスタート。2年あまりが経過し、現在、同協会が認定した「遺品整理士」は全国で約6000人にとり、会社ベースでの取得状況は4000社近くになる。「今年の早い段階で1万人を突破する見込み」という。各地で開くセミナーはいつも盛況で、認知度の高まりに手応えを感じている。

遺品の廃棄には一般廃棄物収集運搬、販売には古物商の許可が必要だが、これまでの遺品整理業者の中にはこれを無視したり、遺品の扱いがごんざいだったり、不法投棄や高額請求をするといった悪質ケースもあり、「グレーで未整備な業界だった」という。

そもそも同協会の立ち上げは、木村理事長の父親が亡くなった際、「愛着ある数々の

遺品の整理を家族では出来ず、地元の業者に依頼したが、扱いが粗末だと感じた」ことがきっかけ。「大切な家族が亡くなって、遺品をきちんと扱って欲しい、供養して欲しい」という思いがかなえられなかったため、遺品整理にかかると人材の育成を始めた。

同協会では、適切な法令知識や作業手順、故人や遺族へのマナーなどを心得た遺品整理士を育成し、業界の健全化を図る取り組みを進めている。民間資格だが、「現場から生まれた業界初の国家資格

を目指している」。資格の取得には、専用のテキストとDVDによる通信講座を受けた後、試験に合格する必要がある。受講期間は2か月程度で受講料は2万5000円、認定手続きは5000円。「お金で買える資格ではなく、しっかりと勉強し、知識を身につけないと受からない。合格率は低い時で5割程度、今でも4割程度が落ちている。ただ、合格するまで追加負担なく何度でも試験は受けられる」という。

取得することで、「一定の知識と技量を証明でき、お客様の信頼を得た形での活用が可能になる」と説明する。

運送業界でも遺品整理の需要拡大を見込んで、全国で取得者が増加している。引越業者や軽貨物運送事業者らが取得者が目立って次々多くなり、現在300社程度が資格を取得している。遺品整理業は収益率が高く、トラックを保有していれば60〜70%となるケースもある。

40年には人口の3分の1が65歳以上となる超高齢化社会に突入している。(玉島雅基)

遺品整理士の活動

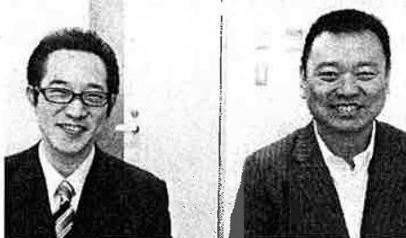
遺品整理士の活動は、遺品の収集・運搬、整理・分別、廃棄・販売などを行う。また、遺族へのサポートや、遺品の鑑定・鑑定書発行なども行う。

認定証書・認定カードについて

認定証書は、遺品整理士の資格を証明する。認定カードは、遺品整理士の個人情報を記載したカードである。

全国で約6000人が取得

小根副理事長(左)と木村理事長



木村理事長は「運送業界では、遺品整理サービスの準備を進めている。木村理事長は「運送業界では、遺品整理サービスの準備を進めている。木村理事長は「運送業界では、遺品整理サービスの準備を進めている。」と話す。